



リスク管理体制の整備・強化・推進

「総合的なリスク管理」による強固な組織をめざし、グループ内の体制を強化しています。

GLOBAL MESSAGE



リスク管理体制の強化

住友電装グループでは、リスク管理活動を統轄するためのリスク管理委員会を設置し、当社事業を取り巻くさまざまなリスク軽減策を進めています。

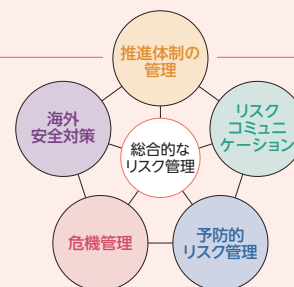
昨今、事業のグローバル化に伴い、各国での災害や事故、政情不安をはじめ、あらゆるリスクに直面するケースが増加しています。そこで、グローバルでの管理体制を強化すべく、2017年4月に「リスク管理室」を設置しました。リスク管理室では網羅的にリスクを把握するためグループ全体でリスクの棚卸を実施し、重要度の高いリスクへの対応策を優先的に検討・実施しています。

住友電装 (SWS) [日本] | 管理本部リスク管理室 > 主席 | 橋本 晃一

リスク管理活動方針

リスク管理基本方針では、住友電装グループ基本理念のもと、全社的な方針（人命尊重、製品の安定供給、ステークホルダーとの良好な関係維持）を明確にしています。

全社的なリスク管理体制として、リスク管理活動の5本柱（推進体制の管理、リスクコミュニケーション、予防的リスク管理、危機管理、海外安全対策）を定めて総合的なリスク管理活動を推進しています。



リスク管理推進体制

リスク管理委員会では、リスク管理を推進するためにリスク管理室を事務局とする「リスク管理推進委員会」を設置し、推進役として、各部門・国内製造子会社にリスクマネージャー、各部署にリスク管理担当者を選任しています。これにより、平常時のリスク管理活動に加え、危機発生時にも連携して対応可能な体制を構築しています。

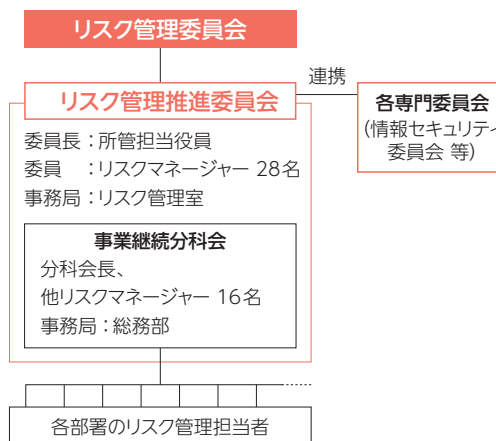
2017年度は各リスクマネージャーの協力のもとグループ全体でリスク棚卸を実施し、重要度の高いリスクに対し、BCP^{*}を含めたリスク対応策を策定しました。今後は定期的にリスク棚卸を実施、BCPの見直し、重要度の高いリスクへの継続的な対策によりリスク管理の強化を図っていきます。

^{*}BCP：「Business Continuity Planning（事業継続計画）」の略。災害や事故など、不測の事態を想定し、重要業務への影響を最小限に抑え、仮に中断しても速やかに復旧・再開できるようにあらかじめ策定しておく行動計画のこと。

グローバルリスクの分析と対応策

世界30カ国を超える国々で事業を行う当社では、地震や台風等の自然災害リスク、政情不安などの政治リスク、コンプライアンス違反等の労務リスク等、多くのリスクが存在するため、グローバル規模でのリスク対策が重要です。

リスク管理体制



リスク棚卸により海外子会社のリスクを洗い出し、国や地域ごとのリスク評価を行い、対応策を検討・実施していきます。

また、顕在化したリスクの早急な情報展開、対策の実施に加え、定期的なリスク情報を関係者に展開することでリスクの予防を図っています。ワイヤーハーネス事業においては、一部の生産工場で操業が停止した場合でも、日本側で生産レイアウトをコントロールすることで、他拠点での生産・供給対応ができるよう取り組んでいます。

今後はさらなるグループ管理強化に向けて、海外子会社の状況を踏まえ、顧客要請に応えるための体制づくりを進めていきます。

▶ 2017年度の活動

住友電装グループ全体を「リスクに強い組織」にするため、有事の際、部門間で速やかに連携ができるよう、BCPの策定や見直しを進め、社内体制を強化しています。また、情報セキュリティ対策も強化しています。

● BCPの強化

大規模地震や新型インフルエンザなどの危機発生時でも重要業務を継続し、迅速な復旧を図るため、BCPを策定し定期的に見直しています。また、南海トラフ巨大地震等の発生を想定した避難・防災訓練や津波避難マニュアルの作成と従業員への周知徹底など、各施策を展開しています。

2017年度は復旧準備段階の行動計画の見直しや、グループ会社間・部門間協業の推進によるレベルアップと整合性の確保に取り組みました。また、継続して実施している図上訓練では、想定シチュエーションと既存のBCPを照らし合わせて計画の有効性を検証したほか、初動対応や情報収集体制の統一、事業復旧支援といった拠点ごとの体制強化を目的に、製作所単位でのBCPを作成しました。

この取り組みを各製作所に展開することで、さらなる体制の強化を図ります。ハード面では、災害情報を共有できる社内イントラネットの活用や携帯メールアドレスへの一斉発信機能を整備しました。また並行して、サプライチェーン全体でのリスク対応能力を高めるため、サプライヤーへの調査・ヒアリングを実施し、当社の生産・供給への影響が大きいサプライヤーの特定と有事における対応策を強化しています。

● 情報セキュリティ対策

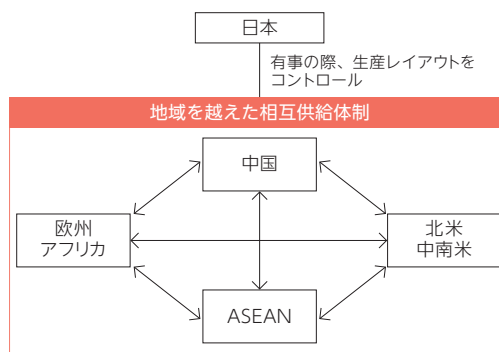
当社の情報資産を適切に保護・管理することが重要であると考え、基本姿勢としての「情報セキュリティ基本方針」に基づき、情報セキュリティの確保に必要な組織体制や管理方法等を「情報セキュリティ対策標準」として定めています。

事故発生時には、情報セキュリティに関するインシデントを迅速に把握し、早期対応するためCSIRT*を立ちあげ、体制を強化しました。情報セキュリティ委員会に設けている窓口を起点に、調査・分析・対策を早急に実施できる体制を敷いています。

2017年度は、グローバルセキュリティ体制との連携強化に取り組み、「いつでも起こる可能性がある」事故に対して素早く初動対応ができるよう、インシデント発生時の対応フローを作成しました。

* CSIRT : Computer Security Incident Response Teamの略。

▶ 生産コントロール体制



BCP連携訓練の様子

Voice

30拠点の事業継続計画策定に尽力

Sumitomo Wiring Systems (U.S.A.) Inc. (SWS-USA) [米国]
ゼネラルマネージャー
モルガン ペニー



私は、米国、カナダ、メキシコ、日本、中国、ASEAN諸国にまたがるSEWSの製造業務におけるグローバルサプライチェーンとリスクマネジメントの責任者をしています。

17年前の入社以来、インフラ、コミュニケーション、システム改善にかかわる活動を主導し、顧客動向予測や変化点分析を実施することで、リードタイム短縮、納期遵守、無駄と費用の削減を計画してきました。

現在は米国、カナダ、メキシコに点在する30以上の拠点を対象にSEWSのBCPを実施するため、組織内の優れた技能を持つユニット・リーダーやプロセスに精通した部門レベルの責任者の統括・支援をしています。

▶ 情報セキュリティ体制

